

(体育科)

「言語活動を取り入れた体育指導の研究」
～互いに認め合い、高め合う子どもの育成をめざして～

大阪市立西島小学校 原田 義広
櫻井 直紀
大崎 綾子

1. 研究主題の設定理由

本校の児童は、毎年「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、男女ともに大阪市・全国の平均を下回る種目が多い。また、日頃の体育科の学習でも、体力・運動能力において課題のある児童が多く、学習中のルールやマナーなどが身に付いていない児童も見られる。これらの現状から、体を動かすことの楽しさや、運動ができる喜びを味わわせ、体力や運動能力の向上につなげる指導や、互いに協力したり、認め合ったりしながら運動に取り組む姿勢や態度を養う必要があった。

そこで平成 26 年度（2014 年度）から、ペアやグループで学習を進め、互いに認め合ったり、技能を高め合ったりできるような言語活動を取り入れた体育指導の研究を進めてきた。昨年度は、児童同士の教え合いが少なく、言語活動を通して技能を高めるまでには至っていないこと、めあてを意識し、どのように課題を解決すればよいのかを考えることができていないことが課題として挙がった。

本年度は、これまでの課題を踏まえ、めあてをより明確にし、課題を解決したり、技能を高めたりするための言語活動をさらに活発にするための指導法の研究に取り組んだ。

2. 研究の視点と内容

（１）言語活動を取り入れた授業づくり

- 学年の実態に応じて、ペアやグループなどで互いのよい点や改善すべき点を話し合い、言語活動を通して互いに認め合ったり、技能を高め合ったりできるようにする。
- ワークシートや学習カードをもとに、個人やチームの課題を明確にし、その課題を解決するためにはどうすればよいのかを話し合ったり、学習資料集や映像資料、作戦ボードなどを活用し、練習方法や作戦なども考えたりできるようにする。
- 児童の技能を高めるために、より効果的な練習方法や教材を研究し、学習に必要な基本的な技能を全員が練習する時間や、個人やチームの課題に沿った練習に取り組む時間を設定する。その際、互いに教え合いや励まし合いができるよう指導したり、友達や互いのチームのよい動きを全体で共有できるようにしたりするなど、言語活動を通じた技能の向上を図る。
- 練習の際に児童が参考にできるような指導者の声かけや支援の仕方を工夫するとともに、児童の話し合いを活発にし、技能を高めるための指導法やタブレットの活用法、学習カード、ヒントカード、映像資料などを工夫する。

（２）児童が意欲的に活動できる授業づくりと環境整備

- 学年の実態に応じて、音楽やタイマーに合わせて学習を進めたり、コート of 広さや活動できる場を工夫したりして、運動量を確保できるようにする。
- 運動の苦手な児童や学習に関わる運動の経験が少ない児童も学習に取り組みやすくするため、ルールを柔軟に工夫する。

- 友達や互いのチームのよかった点を発表する時間を設け、互いを認め合い、協力し合うことの大切さを感じられるようにし、学習への意欲や態度を養うことができるようにする。
- 学習に必要な器械・器具を導入したり、修繕したりするなど、環境の整備を図る。

（３）体育科学習の系統的な指導の確立と児童の実態把握

- 昨年度までに作成したゲーム・ボール運動領域の年間指導計画を活用し、それぞれの運動に必要な技能を検討し、それを身に付けるための手立てを工夫する。
- 各学年の学習での練習方法や作戦、よい動き、学習カード、映像などを全教員で共有する。
- 年度当初に、児童に体育科学習に関するアンケートを実施し、結果を指導に生かしていく。また、年度末にもアンケートを行い、一年間の児童の実態の変化を把握する。

３．研究の成果と今後の課題

（１）研究の成果

- ルールを工夫したり、器械・器具などの学習環境を整備したりしたことで、児童が意欲的に学習に取り組むことができ、運動量も豊富になった。
- 作戦タイムを十分確保し、学習カードや作戦ボード、タブレットなどを活用したことで、チームや相手の動き、作戦を考えたり、確認したりする話合いが活発になった。
- 体の動きを具体的に示した掲示物を用意することで、児童の技能向上に繋がった。また、指導者が技能面について具体的に助言することで、それを模範として児童同士の教え合いが活発になった。
- ゲーム・ボール運動領域の年間指導計画を活用し、各学年における必要な技能を明確にしたことで、技能向上のための手立てを工夫し、児童の技能を高めることができた。また、系統的な指導を行ってきたことで、学習カードや作戦ボードを活用し、個人やチームの課題を見付けたり、課題の解決方法や作戦などを考えたりする話合いの仕方が定着した。
- 体育科学習に関するアンケートの結果から、体育科の学習に意欲的に取り組み、友達と協力して取り組む楽しさや、技能が高まる喜びを感じる児童が多くなったことが分かった。

（２）今後の課題

- 課題が個人やチーム、学年の実態に合っていなかったり、個人やチームの課題に沿った練習や振り返りができていなかったりする場面が見られた。課題や練習内容を指導者がより細かく把握し、それらに沿った振り返りができるよう指導・助言を行う必要がある。
- 必要な技能が十分に身に付いていない児童もあり、指導者の助言や児童同士の教え合いを通して技能を高めるためのさらなる手立ての工夫が必要。
- コートや器具の配置など、安全面や学習環境の配慮が行き届いていないことがあった。児童がより意欲的に学習に取り組み、課題を解決し易くなるような場の設定の工夫が必要。